

ニュースレター

— 基本理念 —

市民のため 市民とともに 全職員力を合わせ
田川の医療を守る 質の高い 市立病院を 創造します
“地方の医療創生は田川から”



小児科救急車受け入れ拡大

小児科 部長 尾上 泰弘

田川市郡は1市6町1村の広いエリアの人口約13万人を5台の救急車で救急隊の方々が対応しています。子どもの救急車要請の多くは「熱性けいれん」です。熱性けいれんは、発熱とともに起こるけいれんで日本人の1割近くが経験する病気ですが、保護者の方にとっては我が子が死ぬのではないかと思うのが普通です。けいれんは5分以内に止まることが多いのですが、長引くこともあり、速やかに病院で診察を受けることが大切です。



田川市立病院小児科では今まで救急車の受け入れを平日の8時30分から17時までに限っていました。このため田川市郡の子どもの病気に関する救急車要請は年間約300件ありますが田川市立病院は約50件しか対応できず、150件以上は飯塚地区に搬送されていました。飯塚市までは約30分の時間がかかり初期対応が遅れることや、救急車が1時間以上

の間、田川市郡から不在になるなどの問題点がありました。

当院小児科の3人の常勤小児科医は当番制で病院近くにて待機しており、平成30年7月から小児科の救急車対応を24時間365日にすることを決断しました。患者さんに安心安全を届けたい、そして、救急車が地域に不在になる時間を減らすことで次の重症患者さんの役に立ちたいと思います。既にご利用された患者さんからは「速やかに近くで対応してもらって良かった」という声をいただき、私たちもやりがいを感じています。時には救急車の方が医師より早く病院に到着することも考えられるので、専用携帯電話で救急隊と連携し他の救急センターに搬送すべきかを判断して受け入れています。

田川で子どもの急病に対応できるようになることで、田川のみなさんが安心して過ごせるようにこれからも職員や救急隊等と協力して努力して行きたいと思います。



放射線科に常勤医師着任

放射線科 医長 野崎 善美

本年4月に常勤医として着任しました野崎です。よろしくお願いします。画像診断(CT、MRI、RI検査)の読影を行っています。各科の先生からの依頼、地域医療機関、開業医の先生方の検査要望に応じて、各種画像診断レポートを迅速に作成しています。私が永年携わってきた血管造影、IVR(インターベンショナルラジオロジー；画像下治療) [主に

肝腫瘍に対する肝動脈塞栓術、門脈圧亢進症に対するBRO、咯血、消化管出血、腹腔内出血に対する動脈塞栓術、血管腫病変に対する血管拡張術、ステント治療等]、各科の先生方と協力しながら積極的に行いたいと考えています。



眼科の充実～最新機器の導入とバリアフリー化～

眼科 医長 永戸 天

平成29年4月に常勤医として赴任し、診療の質向上と外来や入院におけるバリアフリー化を推進しています。

糖尿病網膜症や緑内障などに有用な光干渉断層計(眼底を立体的に撮影、造影剤を使わずに眼底の血流を描写)、白内障などに有用なウェーブフロントアナライザー(見え方を疑似表現)等の最新機器を用いて、より正確に診断できるようになりました。体の不自由な方も、効率よく安全

に移動し、楽な姿勢で診察を受けることができるように、診察室を改装し、眼科用車いすを導入しました。また、持病のある方、体の不自由な方、高齢な方も、安心して手術を受けられるように、入院環境を整えました。

今後も、患者さんがより良い医療を安全・安心な環境で受けられるよう努めてまいります。

ホリスティック・マーケティングを導入しました

田川市病院事業管理者 齋藤 貴生

田川市立病院では、病院再生を成就したことに伴い、平成30年度からその活動の範囲を病院の内部から外部に広げることになりました。そのキーワードは、ホリスティック・マーケティングです。ホリスティック・マーケティングとは、ある地域における人々の顕在的または潜在的なニーズやウォンツを把握し、それらを満たす価値を創造し提供することを、組織全体で包括的（ホリスティック）に取り組むことです。

田川地域の大きな課題として、田川医療圏は住民の死亡率が、福岡県内の13医療圏の中で最も高いこと、また、田川

医療圏から他の医療圏への患者の流出が田川在住患者の33%にも上っていることが挙げられます。この課題を解決するために、まず、田川地域の住民の方々が、田川地域における医療や保健についてどのような必要性や希望を感じているかについて把握し、それを満たす医療や保健を作り出し提供する取り組みが必要です。

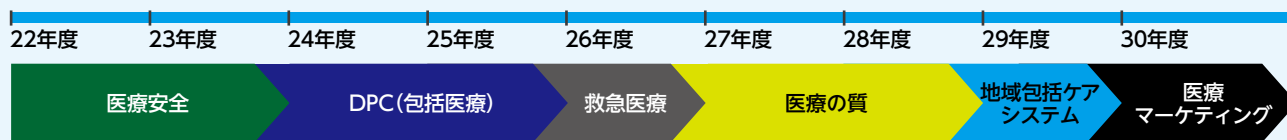
そこで、まずは、田川地域の医療機関が一体となり、田川地域における医療ニーズについてアンケート調査をすることが計画されました。これが実現しました場合には、ぜひ皆さま方のご協力をお願いいたします。

「医療マーケティング～田川地域で必要な医療を目指して～」をテーマに平成30年度総合医学会で取り組みます

総合医学会準備委員会 委員長 天野 裕治

このテーマに関して、職員の理解を深めるために、この分野を専門にされておられる九州大学大学院医学研究院 医療経営・管理学講座の馬場園明教授に、平成30年7月11日に第1回例会で講演をしていただきました。

今後は、医療マーケティングについて職員全体で理解を深めることを目標に取り組んでいく予定です。



ねっしょう 熱傷(やけど)に注意

熱傷（やけど）とは、熱による皮膚及び生体の変化であり、範囲が広く深い重症の熱傷は皮膚の障害にとどまらず、ショックになるなど重篤な状態に陥ります。昔は沸かし過ぎた熱湯の入った浴槽に転落するなどして重症の熱傷が多かったのですが、様々な所で安全対策が進み重症熱傷は比較的少なくなりました。しかし、現在も家庭内の乳幼児の事故で一番多いのは熱傷であり、居間と台所での熱傷が8割を占めるとされ、家には熱傷の原因があふれています。特に危険なのは0歳～1歳のお子さんです。

原因として多いのは、カップ麺やみそ汁などの調理食品、ストーブ、ポット、炊飯器、花火、アイロンなどです。これらによる熱傷は昔からよくありましたが、近年では、ヘアーアイロンや電気ケトル、加湿器、IH調理器による熱傷も多く



形成外科 部長
柳澤 明宏



なっています。熱くなるものは全てやけどの原因になると考え、特に小さなお子さんのおられる家庭では対策が必要です。

また、あまり熱くない、心地よいと感じる程度の温度のものでも長時間接触すると低温熱傷になります。42度でも6時間接触すれば細胞が変化するという報告があります。電気あんか、電気毛布、湯たんぽ、使い捨てカイロなどで低温熱傷になります。低温熱傷は初め軽いやけどに見えても、皮膚の深い部分まで損傷していることがほとんどですので、速やかな病院受診が必要です。

ストーブ接触による熱傷



低温熱傷



受傷後3日目



受傷後2週間

形成外科の紹介

形成外科とは、体表面全てにかかわる外科です。なるべく元の機能になり、目立ちにくくなるよう治療を行います。形成外科が診療する疾患は、多指症・口唇裂・耳介奇形などの先天異常、皮膚腫瘍や皮下腫瘍、手の外傷、熱傷、顔面外傷、瘢痕ケロイド、褥瘡や糖尿病性潰瘍などの難治性潰瘍などです。

地域医療連携 地域の医療機関のご紹介



医療法人 中山産婦人科医院

住 田川郡添田町庄893

☎ 0947-82-0393

【院長】 中山 麻子 先生

【診療科】 産婦人科

昭和43年の開院当時、田川市郡内の開業産婦人科医院は14軒ありました。現在は、当院のみとなりました。現在は外来診療のみ行っています。遠路から来院される方を考慮し、予約制にして、通院回数を少なく、時間をかけた診療を心がけています。

思春期の月経困難症、月経不順、性感染症、妊娠、避妊、不妊の相談、良性の婦人科疾患(腫瘍)、子宮頸癌、体癌、卵巣がん、外陰がんの検査、更年期障害、頻尿、尿漏れ、臓器脱など、加齢によるQOLの向上など多岐にわたります。

県立高校の学校医の30年以上の経験や、現在も田川市の4県立高校の「性と心の相談医」を続けていますので、思春期の子どもたちとの面談は和やかです。

1984年から生涯1カルテを現在まで続けていますので、患者様の状況も理解しやすく、女性同士の気安さから、相談を受けやすい環境もあります。特にうつ症状を合併する方が増え、対応する機会が多くなりました。



【診療時間】

※予約制(電話予約可)、入院施設有

診療時間	月	火	水	木	金	土	備考
【午前】 9:00～12:30	●	●	●	●	●	●	月・木・土曜は 13:30まで
【午後】 14:00～17:00	/	●	●	/	●	/	

藤下医院

住 田川市大字奈良1587番地92 ☎ 0947-46-4700

【院長】 藤下 敏 先生

【診療科】 内科、神経内科、リハビリテーション科

昭和60年に長崎大学を卒業後、田川市立病院勤務を経て、平成13年に内科、神経内科、リハビリテーション科を標榜し開院しました。内科は一般内科や生活習慣病(糖尿病、高血圧、高脂血症)を主に、地域のかかりつけ医として診療しています。神経内科は、脳、脊髄、神経、筋肉の病気を取り扱う内科で、具体的には脳卒中、パーキンソン病などの神経難病、頭痛、神経痛、顔面痙攣、てんかん、認知症などがあり、田川地区の認知症サポート医として、認知症の診断、相談、市との連携等を行っています。リハビリテーションは、通常の理学療法、水深1mのプールでの訓練や、介護保険での通所リハビリテーションを行っています。水中訓練が腰痛の筋力増強訓練にも良いため、整形疾患の患者さんも一緒に訓練しています。

【資格等】 田川医師会 介護・会計担当理事
福岡県医師会認定総合医、医学博士、内科認定医、
神経内科専門医、認知症サポート医



【診療時間】

診療時間	月	火	水	木	金	土	備考
【午前】 9:00～13:00	●	●	●	●	●	/	土曜休診
【午後】 14:00～18:00	●	●	●	●	●	/	



田川市立病院 外来診療担当医

外来診療受付時間 8:30~11:00 休診日 日曜日・祝日・年末年始(12月29日~1月3日)

平成30年8月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土
循環器内科	新患 再来	北野 哲司 (産業医科大学)	塚原 慧太 (産業医科大学)	瀬戸山 航史 (産業医科大学)	浅田 哲史 (非常勤)	井上 航之祐 (産業医科大学)	新患のみ 総合診療科医師(非常勤) 鴻江 俊治 もしくは 河村 康司 または 内科当番医
消化器内科	新患 再来	山崎 一朋	平塚 裕晃 (福岡大学)	田中 利幸	—	小野 貴大	
腎臓内科	新患 再来	大仲 正太郎	—	吉田 健	辻川 浩明 (九州大学)	末永 達也	
糖尿病内分泌内科	新患 再来	—	—	—	南 陽平	—	
脳血管内科	新患 再来	—	—	芝原 友也 (九州大学)	—	—	糖尿病外来(第1・3・5) 予約のみ 藤井 雅一 (九州大学)
呼吸器内科	新患 再来 (要予約)	—	田中 謙太郎 (九州大学)	—	—	—	
肝臓内科	新患 再来	肝臓 福田 浩気 (九州大学)	肝臓 徳松 誠 (九州大学)	—	—	—	
神経内科	新患 再来 (要予約)	—	—	田中 栄蔵 (九州大学)	—	—	
内科	新患 再来	—	—	—	—	中国 和利 (産業医科大学)	当番医
小児科	新患 再来 再来	尾上 泰弘	倉田 浩昭	今井 崇史	倉田 浩昭	尾上 泰弘	
外科	新患 再来	松隈 哲人	丸山 晴司	丸山 晴司	松隈 哲人	木下 郁彦	
呼吸器外科	新患 再来	—	非常勤医師 (九州大学)	木下 郁彦	—	木下 郁彦	
整形外科	新患 再来 再来	久枝 啓史 新井 貴之 遠矢 政和 (九州大学)	久枝 啓史 石橋 正二郎 中村 良	石橋 正二郎 新井 貴之	久枝 啓史 新井 貴之 北出 一季 (九州大学)	久枝 啓史 石橋 正二郎 中村 良	当番医
形成外科	新患 再来	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	柳澤 明宏	休診
皮膚科	新患 再来	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	分山 英子	休診
泌尿器科	新患 再来	足立 知太郎	石田 浩三	石田 浩三	足立 知太郎	足立 知太郎	当番医
産婦人科	産科(妊婦検診) 婦人科 新患 婦人科 再来	— 結城 光太郎 藤田 拓司	藤田 拓司 安武 伸子 椎名 隆次	安武 伸子 椎名 隆次 結城 光太郎	椎名 隆次 藤田 拓司 結城 光太郎 安武 伸子	結城 光太郎 安武 伸子 藤田 拓司	休診
眼科	新患 再来	永戸 天	永戸 天 塩瀬 聡美 (九州大学)	永戸 天 海津 嘉弘 (九州大学)	永戸 天	永戸 天	休診
耳鼻咽喉科	新患 再来	非常勤医師 (福岡大学)	(午後) 非常勤医師 (産業医科大学)	—	非常勤医師 (福岡大学)	—	非常勤医師 (産業医科大学)
総合診療科	新患 再来	坂中 博昭 (福岡大学)	—	—	—	—	—
麻酔科	新患 (要予約) 再来	— 小山 穂 (非常勤)	—	—	—	—	—
歯科・歯科口腔外科	新患 再来	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	天野 裕治 藤田 弥千	当番医

新患 新しく受診される患者さん 再来 当院を受診され、予約をしている患者さん

小児科夜間診療時間(受付時間):平日の18:00~21:30
耳鼻咽喉科 午後受付時間:火曜日の13:30~15:30

ACCESS

JR+ 平成筑豊鉄道
西鉄バス

JR田川後藤寺駅→JR田川伊田駅
平成筑豊鉄道田川伊田駅
→田川市立病院駅
※田川市立病院駅からは無料の連絡バスが出ています。
後藤寺(金田平原団地行き)
→田川市立病院田川市
コミュニティバス[路線①] 坂谷・田川病院線 ※後藤寺②へ乗り換え
[路線②] 大浦・弓削田線
[路線③] 伊加利・松原線
[路線④] 鎮西・金川線
[路線⑤] 施設循環線 ※伊田駅前で③または④へ乗り換え
[路線⑥] 白鳥工業団地線 ※伊田駅前で③または④へ乗り換え